

## 勝山城博物館・勝山市連携第6回共催展の概要について

1. 場 所： 勝山城博物館 4階 展示室

2. テーマ： 福井の偉人 書家 西脇呉石 ～研ぎ澄まされた心と線～

3. 概 要：

西脇呉石（1879～1970）は勝山市出身の書家で、文部省の委嘱を受けて大正年間の「国定書方手本」をはじめ、数多くの教科書を揮毫した人物で、書学の世界では重要人物に位置づけられる。しかしながら、勝山市民にはその存在があまり知られておらず、「福井県の偉人100人」からも漏れているのが現状である。

まずは多くの方に呉石の作品やその考え方を見て知っていただき、呉石没後50年となる2020年以降、西脇呉石を再評価していく気運を作りたい。

本展覧会では、呉石自身の作品や手本類のほか、呉石が収集した明治時代を中心とする作品を中心に展示を構成する。



西脇呉石像

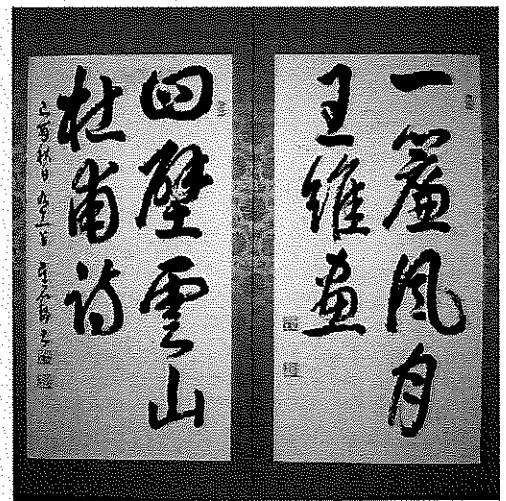
4. 会 期： 令和元年7月20日(土)～9月30日(月) 73日間・会期中無休

5. 料 金： 大人700円、小中高生260円  
 [市民は2割引  
 (大人560円、小・中・高生210円)]  
 学校行事は減免申請で無料

6. 主な展示品

呉石自身の書作品・南画作品・草稿類・手本類・道具類のほか、呉石が収集した明治時代を中心とする作家の作品など幅広く展示する。

※ 南画・草稿類・道具類は大半が初公開。



西脇呉石の書

7. 関連講演会・関連イベント

(時間はいずれも午後1時30分～午後3時を予定)

7月27日(土) 講演会「書家西脇呉石について」 勝山城博物館 林学芸員

9月14日(土) 講演会「書芸術の面白さ」 勝山城博物館 林学芸員

9月21日(土) 外部見学ツアー「西脇呉石書丹石碑巡り in 勝山」

※7月27日、9月14日の講演会の後には展示解説を行う。

●報道関係者対象内覧会

7月19日(金) 午前10時～

【問い合わせ先】

○勝山城博物館 担当：林 TEL 0779-88-6200

○勝山市教育委員会 生涯学習・スポーツ課 文化財保護室

担当：寶珍 TEL 0779-88-8113 FAX 0779-88-1120

mail: shiseki@city.katsuyama.lg.jp

勝山城博物館・勝山市連携第6回共催展

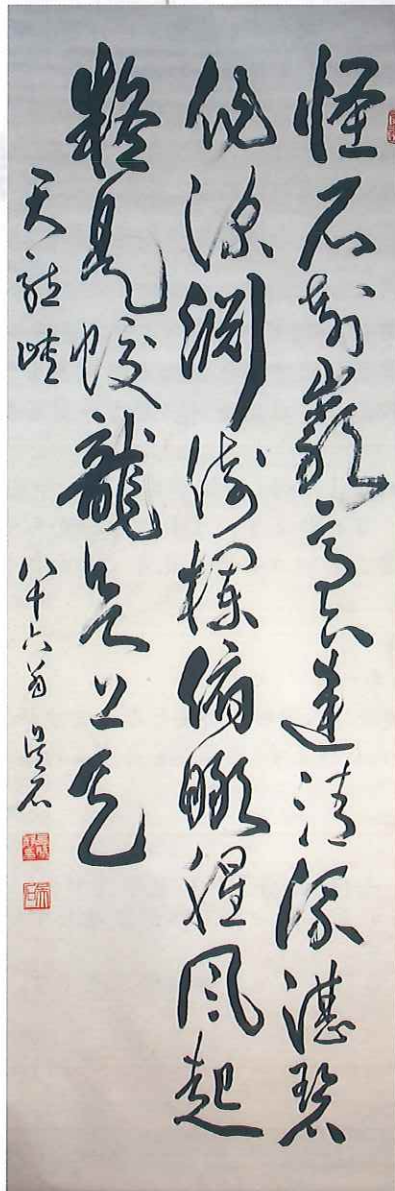
令和元年7月20日(土)～9月30日(月)

福井の偉人

# 書家西脇吳石

～研ぎ澄まされた心と線～

生誕140年  
記念



開館時間 午前9時30分～午後4時30分 (入館は30分前まで)  
休館日 会期中無休  
入館料 一般700円 小中高生260円

(勝山市在住の方はご住所が分かるものをお持ちいただくと2割引となります)

主催 勝山城博物館・勝山市  
会場 勝山城博物館4階企画展示室 (平常展示もごさいます)

公益財団法人多田清文化教育記念財団



勝山城博物館

KATSUYAMA CASTLE MUSEUM

〒911-0822 福井県勝山市平泉寺町

TEL 0779-88-6200

平泉寺85-26-1

<http://www.katsuyamajyou.com/>



# 「福井の偉人 書家西脇吳石

## ～ 研ぎ澄まされた心と線～

西脇吳石(1879～1970)は勝山市出身の書家で、大正年間の第三期固定書き方手本をはじめ数多くの教科書を揮毫した人物として著名です。しかし戦後の日展や毎日書道展で展開されたその芸術書は、これまであまり注目されてきませんでした。それは吳石が、戦後盛んになった前衛などの新しい書と比べ、いうなれば前時代的とも思われる書を展開したことも大きいでしょう。しかし吳石は自身の作品を情性や型にはまって制作していたのでは決してなく、新しい書と全く異なる芸術観をその根底に据えていたことを忘れてはなりません。それは日本の伝統的な芸術観でもあり、現在多くの人々に忘れられているものでもあるからです。

本展覧会を通じて、書の世界で戦後ずっと重点が置かれなかったそのような伝統的な書をぜひ見直してみましょう。その試みは戦後の書を否定するものでは決してなく、書という芸術の幅を広げるものとお考え下さい。会派など無関係に心に響くものがあるでしょう。それは、芸術とは何なのか、書はどのような芸術なのか、書は「分かる」ものなのか、といった疑問にも何らかの指針を与えてくれるものと思います。

本展覧会では、吳石自身の書作品・南画作品・草稿類・手本類・道具類のほか、吳石が収集した明治時代を中心とする作家の作品など幅広く展示いたします。南画・草稿類・道具類は大半が初公開です。この機会をお見逃しなく。

### ■講演会

7月27日(土)「書家西脇吳石について」林淳(当館事業課長・学芸員)

現在の主流である個性を前面に出す書と異なる伝統書を貫いた吳石ですが、そこには確たる芸術精神と制作信念がありました。日本の伝統書のまさに最後を飾ったその書を解説します。

9月14日(土)「書芸術の面白さ」林淳(当館事業課長・学芸員)

「書は分からない」とよく言われます。それは「分からない」のではなく「知らない」のです。字は自分で書けるからこそ見落としがちな「書」という芸術の見方・面白さを解説します。

時間：午後1時30分～午後3時

会場：勝山城博物館2階障壁画ホール

聴講の事前予約は不要です。1度目は入館料が必要となりますが、発行する聴講券のスタンプをお見せいただくことで、2回目の聴講の際は無料でご入館いただけます(聴講券を必ずご持参下さい)。

### ■その他会期中イベント

9月21日(土)午後1時30分～午後3時頃「外部見学ツアー 西脇吳石書丹石碑巡りin勝山」

勝山市内には書家西脇吳石が筆を執った石碑が散在しています。今回はバスでそれらの中から代表的なものをめぐり、拓本での解説も行います。

この他にも展示解説など、各種イベントを開催予定です。各イベントの詳細は決定次第当館ホームページで公開いたします。

会場設置の「お手本シート」に挑戦すると、特別展限定オリジナルバッジをもれなくプレゼント！(予定配布数に達し次第終了)

### ●初公開づくしの展覧会！

- ① 吳石に至るまでの師弟の系譜と作品  
(三井親和・亀田鵬斎・巻菱湖・萩原秋巖・村田海石)
- ② 吳石が追い求めた書家の作品  
(日下部鳴鶴・巖谷一六ほか)
- ③ 吳石の使用印100顆以上
- ④ 鳴鶴もうなった「停雲館法帖」10冊と付属の吳石最古の肉筆
- ⑤ 吳石生前の映像とラジオ放送に出演した際の録音
- ⑥ 吳石がその死の4時間前に書いた絶筆
- ⑦ 戦火で焼失した東京の自宅で残った希少な端溪硯
- ⑧ 師である村田海石から送られた書簡25通を仕立てた卷子

この他日展と毎日展出品作10点以上を同時に展示する試みも初となります。



#### 交通案内

【鉄道ご利用の方】

JR福井駅からえちぜん鉄道勝山永平寺線で勝山駅下車

○市内循環バス「ぐるりん南部方面」

「平泉寺・猪野瀬予約便」「恐竜バスダイナゴン」

にて、「勝山城博物館」下車徒歩3分

○タクシーで10分

【お車ご利用の方】

中部縦貫自動車道勝山インターチェンジより、

国道157号を東へ15分(無料駐車場75台)

公益財団法人多田清文化教育記念財団



勝山城博物館

KATSUYAMA CASTLE MUSEUM

〒911-0822 福井県勝山市平泉寺町平泉寺85-26-1

TEL 0779-88-6200 FAX 0779-88-1999

http://www.katsuyamajyou.com/

twitter https://twitter.com/katsuyamacastle